

Title	まえがき
Sub Title	
Author	大森, 幹真(Omori, Mikimasa) 石塚, 祐香(Ishizuka, Yūka) 石井, 清香(Minagawa, Yasuyo) 皆川, 泰代(Toda, Kōji) 兎田, 幸司
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2022
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.93 (2022.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	山本淳一先生退職記念
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000093-0047

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

まえがき

2021年5月に皆川泰代先生、兎田幸司先生より山本淳一先生の退職記念号のお話を頂き、大森幹真さんと石塚は取りまとめ係を仰せ付かりました。当初は、山本先生とご縁のある先生方数名にご寄稿をいただく予定でした。しかしこれまでの山本先生の研究の軌跡を弟子なりに振り返ってみた時に「多様な専門分野の先生方とのコラボレーション」が大きな特徴の1つなのではないかと思いました。そうした特色を最も著すことができ、より多くの先生に本企画に携わっていただけるように、修了生などが山本先生とご縁のある先生方にインタビューを行う「対談」を企画しました。インタビューを担当した修了生の中でも山本先生のもとで学位を取得した大学院生は、社会学研究科実習室において、入室された子どもたちと保護者の協力のもと、発達臨床支援のトレーニングを受けました。このことが、研究と教育の源泉となっていることを申し添えます。インタビューをお引き受けいただいた先生方には、山本先生との出会いや、研究の協働・交流をするようになったきっかけ、研究活動を通じて共に成し遂げたこと、共通領域に対する貢献について多岐にわたりお話しいただきました。中でも社会学研究科にて授業をご担当された Laura Schreibman 先生、井上雅彦先生には、山本先生と直接対談を行っていただきました。このような対談形式を採用することで、多様な先生方から見た多角的な「山本先生像」を浮かび上がらせることができたのではないかと思います。さらに、山本先生には必要に応じて「解説」を加筆いただきました。著者紹介の欄も設け、山本先生が読者に対して特におすすめする論文を紹介しています。こうした解説を加えることで、本企画は山本先生の研究人生を振り返るだけでなく、多様な先生方の専門分野へと読者を誘うための「地図」としての機能を持ちました。本企画を通して山本先生の実践者としての「行動形成」の過程を楽しんでいただけたら幸いです。

この度はインタビュー及びご執筆にご協力頂きました全ての先生方にこの場をお借りして厚く感謝申し上げます。また本企画をご承諾いただきました皆川先生、兎田先生をはじめ社会学研究科紀要編集委員会の皆様に心より御礼申し上げます。

慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要『人間と社会の探求』

山本淳一君退職記念特集号

編集幹事

2013年度修了生 大森幹真

2016年度修了生 石塚祐香

社会学研究科 石井清香

特集号企画担当 皆川泰代

編集主任補佐 兎田幸司